

梅原の子

Umehara Elementary School

梅原小学校 学校だより

令和5年 9月号

備えあれば憂いなし

土砂災害や集中豪雨の主な要因となる「線状降水帯」。近年、見聞きするようになった言葉です。気象庁気象研究所の研究によれば、線状降水帯がもたらしたとみられる集中豪雨の発生頻度は45年間で2.2倍に増えているといます。昭和51年9月12日豪雨被害。梅原地区も47年前のこの豪雨で大きな被害を受けています。治水整備は進んできましたが、またいつ水害に見舞われるか分かりません。梅原小学校では、今年度、4～6年生を対象に、浸水疑似体験映像の視聴や身近なペットボトルを使った防災実験、堤防決壊実験などによる防災講座を行い、実験、防災クイズを交えながら水害への避難行動や事前の備えについて学びました。

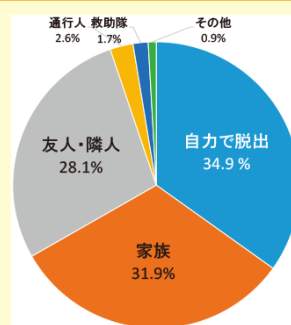
9月も半ばを過ぎましたが、大雨被害・統計開始以来、最も遅い猛暑日など、心配な天候ニュースが連日流れています。天気予報に気を配り、いざという時に備えた行動がとれるように準備をすすめておきたいものです。

災害による被害を最小限に抑えるためには、一人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域で助け合っ

て取り組む「共助」、行政が取り組む「公助」の3つの連携が重要です。一般的に災害時の助けとなる割合は、自助＝70%、共助＝20%、公助＝10%といわれています。災害の規模が大きくなればなるほど、行政の対応力は小さくなり、自助と共助の重要性が高まります。防災白書(内閣府)によると、阪神淡路大震災では、約8割の人が家族や近所の人たちに救出されており、「公助」である救助隊による救出は約2割程度に過ぎなかったという調査結果があります。いざというとき頼りになるのは、自治会や地域の助け合いです。学校では「お互い様の心で近隣同士が助け合う」の意識を高くもつことが求められています。集団で活動する場でのマナー、相手を思いやる心、などについて学びを深めていけるよう努めてまいります。

先人は、私たちにメッセージを残しています。「備えあれば憂いなし」。日ごろからの心の備えも忘れずにご家庭での準備もお願いいたします。

阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助主体等



10月7日(土) 梅原小学校運動会 感染症拡大時の対応について

新型コロナウイルスとインフルエンザの感染が拡大し、同時流行により、全国的に学級閉鎖などが増えています。運動会当日に閉鎖学級がある場合は、以下の対応としますので、ご理解ください。

- ・10月7日に閉鎖学級がある場合は、運動会は延期とします。
- ・開催は、学級閉鎖があげ全クラスが揃う日とします。平日開催となることもあります。
- ・連絡は、保護者：すぐーる 地域：戸別受信機で行います。

新型コロナウイルスや季節性インフルエンザの予防には、咳エチケットや手洗い、マスク着用などが重要です。学校で心配な状況があれば、随時保護者の皆様にお知らせしますので、感染予防にご協力ください。